

氏 名 定 金 豊 ()		
研究分野		所属学会等の名称
物理系薬学, ケミカルバイオロジー, 生物分子化学		日本薬学会, クロマトグラフィー科学会, 日本光医学・光生物学会, Dアミノ酸学会, 三重県薬剤師会
担当授業科目名 分析化学, 基礎物理化学, 基礎薬学演習, 物理系薬学実習 I, 物理系薬学実習 II, 卒業研究, 薬学総合演習, 薬学特別演習 I, 薬学特別演習 II, 生体分子解析学特論, 薬物治療設計・管理学演習		
教育上の能力に関する事項		
事 項	年	概 要
1 教育の実践例、教育に関する評価等 「イメージ戦略」方式による講義の理解を深める方法の実践 担当講義での工夫 「わかりやすい講義の流儀」	2004年～現在 2011年～現在	これまでに担当した専門講義（機器分析学、応用機器分析学）と現在担当している分析化学において、「イメージ戦略」方式という、授業内容に興味を持たせ、難しい原理などの理解を深めるための方法を確立し、講義を実践している。機器分析学と応用機器分析学においては、1000枚以上の図を有する「イメージから学ぶシリーズ」という教科書を作成し、講義に役立てた。 低学年での計算を中心とした学問領域を教えるにあたり、他の先生の講義、大手予備校の講義、小学校の授業などを参考にわかりやすい講義を組み立てた。試行錯誤の末に私なりの講義の流儀を探し出した。それは①黒板中心の講義とする、②「教わる一確認する」のサイクルを作る、③机間指導の実施、④難しい宿題を出すということに具体化された。特に③と④の連携により、学生に「理解できたという実感」を与えることができ、わかりやすい講義の礎となった。机間指導は学生の理解度をリアルタイムで確認でき、講義スピードの調整とともに、学生との個と個の繋がりを構築できる意味で教育効果が高いといえる。わかりやすい講義にするためには、何を伝えるのかではなく如何に使えるのかに時間をかけて準備し、大勢に対する講義でも個と個の繋がりを大事にすることに注力することである。
平成 28 年度 学生授業評価高得点賞	2017 年	前述の取り組みにより、平成 28 年度学生授業評価で高得点であったので表彰された。
平成 28 年度 授業評価改善賞	2017 年	前述の取り組みにより、平成 28 年度学生授業評価で、前年度に比べ学生評価が著しく改善されたため授与された。
2 作成した教科書、教材、指導書等 「イメージから学ぶ構造解析法」 京都廣川書店 全 260 ページ 単著 「薬学テキストシリーズ 分析化学 II」 朝倉書店 全 200 ページ 共著 「イメージから学ぶ分光分析法とクロマトグラフィー」 京都廣川書店 全 157 ページ 単著 「イメージから学ぶ構造解析法（第二版）」 京都廣川書店 全 144 ページ 単著 薬学教育システム 薬剤師国家試験解説書 スタンダード薬学シリーズ II 2 「物理系薬学 II. 化学物質の分析」 東京化学同人 全 374 ページ 共著 CBT 対策問題作成	2008 年 2008 年 2009 年 2009 年 2015 年～現在 2016 年 2018 年－	「イメージから学ぶ」シリーズの第二弾。応用分析学の講義のために書き下ろした構造解析法に関する教科書である。他の大学でも教科書として採用されており、理解が困難な内容をイメージで捉えられると好評である。 モデルコアカリキュラムにも準拠し、機器分析を中心にわかりやすく、ていねいに解説した教科書。各種元素の分析/分析の準備/分析技術/薬毒物の分析/分光分析法/核磁気共鳴スペクトル/質量分析/X線結晶解析のうち、核磁気共鳴法と質量分析を担当 50 ページ分 イメージから学ぶ機器分析学の第二版に相当する教科書である。実際の講義で利用した際の意見を取り入れ、かなりの部分のイメージ図を書き換えた。学生がさらに理解しやすいように工夫された教科書である。 イメージから学ぶ構造解析法の第二版。実際の講義で利用した際の意見を取り入れ、かなりの部分のイメージ図を書き換えた。学生がさらに理解しやすいように工夫された教科書である。 医学系大学教育支援システムに掲載する薬剤師国家試験の解説を分担執筆した。 日本薬学会が編集する薬学コア・カリキュラムに沿った標準教科書であるスタンダードシリーズの教科書を執筆した。分析化学分野の定性分析について、コアカリの理念を熟考しつつ執筆した。定性分析 pp89-108 CBT 対策の模試問題と解説書の作成を行った。
3 教育実践に関係がある実務経験・委員・講師等 第 5 回 高梁学園学術カンファレンス 第 8 回 物理系薬学の教育・研究を展望するシンポジウム 第 2 回教育研究会 シンポジスト 第 3 回教育研究会 受賞講演 IR 推進委員	2010 年 2014 年 2016 年 2017 年 2018 年－	大学全入時代の教育：基礎学力の育成から専門教育へ繋ぐ取り組み」と題して講演を行った。 新設私学の教育の問題点と工夫について講演した。 国家試験に向けた教育方法の改善について他学部の先生とともにシンポジストとして発表した 学生授業評価高得点賞を受賞した背景となる教育方法について講演した。 全学の IR 推進委員として国家試験等へ役立つ解析を実施している。
職務上の実績（学術団体や社会等における活動）に関する事項		
事 項	年	概 要

<p>1 資格、免許、特許、受賞等</p> <p>日本光医学・光生物学学会 第26回 奨励賞</p> <p>バイオシンポジウム in みやざき ポスター表彰第1位</p> <p>日本薬学会九州支部 学術奨励賞</p> <p>武田科学振興財団 「シンポジウム研究奨励」</p> <p>順正学園学術カンファレンス 第1位 創立者加計勉賞</p> <p>(特許) 脳血管性認知症の治療薬</p> <p>(特許) 脳血管性認知症の予防または治療用飲食物、その包装または容器ならびに脳血管性認知症の予防または治療薬</p>	<p>2005年</p> <p>2006年</p> <p>2006年</p> <p>2007年</p> <p>2010年</p> <p>2013年</p> <p>2013年</p>	<p>「切断性光反応ユニットを用いたリガンド結合部位解析法の開発」で受賞した</p> <p>「マンゴー果実中に認知症を予防する活性を発見」で受賞した。</p> <p>「光反応基ジアジリンを利用した生物学的解析法の開発」で受賞した。光反応基ジアジリンをテーマに研究奨励賞を受賞した。</p> <p>「光を利用して化学と生物とをつなぐ新技术を開発する」で受賞した。</p> <p>特許第5294194号 「脳血管性認知症の治療薬」 発明者：川原正博、定金 豊、木葉敬子、永田哲也 特許権者 学校法人順正学園 登録日平成25年6月21日、発行日：平成25年9月18日</p> <p>特許第5382633号「脳血管性認知症の予防または治療用飲食物、その包装または容器ならびに脳血管性認知症の予防または治療薬」発明者：川原正博、定金 豊、木葉敬子 特許権者 学校法人順正学園 登録日平成25年10月11日</p>		
<p>2 学術・社会活動上の・委員・講師・実務経験等</p> <p>研究推進委員会 委員</p> <p>運営委員会 委員</p> <p>学会 幹事</p> <p>実行委員会副委員長</p> <p>代議員</p> <p>会計幹事</p> <p>学術誌編集委員</p> <p>科学研究費委員会専門委員</p> <p>会計監事</p> <p>学術研究会幹事</p> <p>シンポジウム世話人</p>	<p>2007年</p> <p>2011年</p> <p>2012年</p> <p>2012年</p> <p>2013年-2014年</p> <p>2014年</p> <p>2014年-2017年</p> <p>2014年-2016年</p> <p>2015年</p> <p>2018年-</p> <p>2018年-</p>	<p>地域資源活用型研究開発事業研究推進委員会委員 (宮崎県)</p> <p>D-アミノ酸研究会運営委員会</p> <p>日本薬学会東海支部会幹事</p> <p>日本病院薬剤師会東海ブロック、日本薬学会東海支部 合同学術大会</p> <p>日本薬学会 代議員</p> <p>日本薬学会東海支部</p> <p>日本薬学会専門雑誌 BPB, CBP エディター</p> <p>日本学術振興会 科研費 [物理系] 審査委員</p> <p>日本薬学会 東海支部会会計監事</p> <p>新アミノ酸研究会 幹事</p> <p>バイオメディカル分析科学シンポジウム (BMAS) 世話人</p>		
<p>研究業績等に関する事項</p>				
<p>著書名、報告書名等</p>	<p>単・共著の別</p>	<p>発行年</p>	<p>発行所等の名称</p>	<p>著者名・ページ数等</p>
<p>(著書)</p> <p>1. Photoreactive biomacromolecules: Installation of photoreactive units and applications for analyzing biological interfaces</p> <p>2. Zinc and Neurodegenerative diseases</p> <p>3. Quantification of structural alterations of L-Asp and L-Asn residues in peptides related to neuronal disease by reversed-phase HPLC. in <i>D-Amino Acids</i></p> <p>4. Protective Substances Against Zinc-Induced Neuronal Death after Ischemia: Carnosine as a Target for Drug of Vascular Type of Dementia.</p> <p>他3編</p>	<p>共著</p> <p>共著</p> <p>共著</p> <p>共著</p>	<p>2017</p> <p>2013</p> <p></p> <p></p>	<p>Springer Japan KK</p> <p>INTECH</p> <p>Helvetica Chimica Acta</p> <p>Bentham Science Publishers</p>	<p>Yutaka Sadakane, Isao Ohtsuka, and Yasumaru Hatanaka • in <i>Photoaffinity Labeling for Structural Probing within Protein</i>. ed Yasumaru Hatanaka and Makoto Hashimoto, Springer April 2017. pp129-157</p> <p>Kawahara M, Konoha K, Nagata T, Sadakane Y in <i>Frontiers in CNS Drug Discovery, 2010, 1, 21-30 (Atta-ur-Rahman / M. Iqbal Choudhary (Eds.))</i> Bentham Science Publishers (2010)</p> <p>Y. Sadakane, K. Konoha, M. Kawahara, K. Nakagomi in <i>D-Amino Acids in chemistry, Life Sciences and Biotechnology; ed. Hans Bruckner and Noriko Fujii, Helvetica Chimica Acta, Dec. 2010</i></p> <p>Kawahara M, Konoha K, Nagata T, Sadakane Y in <i>Frontiers in CNS Drug Discovery, 2010, 1, 21-30 (Atta-ur-Rahman / M. Iqbal Choudhary (Eds.))</i> Bentham Science Publishers (2010)</p>
<p>(報告書等)</p> <p>1. Separation Condition of the Peptides Containing Isomerized Asp residues after Treatment of Protein L-Isoaspartyl Methyltransferase (PIMT)</p> <p>2. Analysis of Aspartate Isomerization Using Protein L-Isoaspartyl Methyltransferase (PIMT)</p> <p>3. アスパラギンとアスパラギン酸残基の異性化の機構及び生理的機能変化の解析</p> <p>4. Chemical Synthesis of Sialyl Glycosides for Elucidation of Biological Phenomena.</p> <p>5. Expression of Protein L-Isoaspartyl Methyltransferase (PIMT) and Analysis of Substrate Specificity Using Prion Peptide Fragments.</p> <p>6. Establishment of Synthesis Method of Molecular Probe Containing Carbohydrate Ligand and Photoreactive Group for Elucidation of Carbohydrate – Lectin Interactions by Glycosyl Trichloroacetimidate Strategy.</p> <p>7. Effect of higher order structure of recombinant human alpha-crystallin on the rate of beta-linkage isomerization of specific asprtyl residue.</p> <p>8. Experimental conditions for analyzing carbohydrate-binding protein using photoreactive lactose ligand prepared with AffiLight CHO,</p>	<p>共著</p> <p>共著</p> <p>共著</p> <p>共著</p> <p>共著</p> <p>共著</p> <p>共著</p> <p>共著</p>	<p>2015</p> <p>2014</p> <p>2014</p> <p>2014</p> <p>2013</p> <p>2013</p> <p>2013</p> <p>2012</p>	<p>京都大学</p> <p>京都大学</p> <p>京都大学</p> <p>九州保健福祉大学</p> <p>京都大学</p> <p>九州保健福祉大学</p> <p>京都大学</p> <p>日本光医学光生物学学会</p>	<p>Yutaka Sadakane, Noriko Fujii • KURRI Prog. Rep. 2015, PR11-4.</p> <p>Yutaka Sadakane, Noriko Fujii • KURRI Prog. Rep. 2014, PR10-3.</p> <p>定金 豊、千田紗弓 • KURRI-KR-203 p33-36</p> <p>Ohtsuka, I., Sadakane, Y., Atsumi, T., Kakiuchi, N. <i>J. KUHW.</i>, 15, 75 – 81</p> <p>Yutaka Sadakane, Noriko Fujii • KURRI Prog. Rep. 2013, PR3-3.</p> <p>Ohtsuka, I., Sadakane, Y., Hada, N., Hada, J., Atsumi, T., Kakiuchi, N. • <i>J. KUHW.</i>, 14, 165 – 171.</p> <p>Yutaka Sadakane, Noriko Fujii • KURRI Prog. Rep. 2012, PR3-3</p> <p>Sadakane, Y., Yamazi, M., Otsuka, I. <i>Photomedicine and Photobiology</i> 34, 37-38</p>

9. 神経疾患に関わるペプチド断片の機能とアミノ酸レベルの構造変化：アミロイド線維化と細胞毒性への影響～アスパラギン酸構造変化の速度論の検討	単著	2012	京都大学	定金 豊・KURRI-KR-169 p38-42
10. Effect of structural alteration of asparagine residue in the prion peptide fragment (106-126) on the amyloid fiber formation.	共著	2011	京都大学	Y. Sadakane and N. Fujii・KURRI Prog. Rep. 2011, PR5-4.
11. Analysis of protein constitution of Neurospora cultured in various calcium concentration: comparison of calcium homeostasis of wild-type and defective mutant strain.	単著	2011	九州保健福祉大学	Yutaka Sadakane・J. KUHW 12, 171-176
12. Comparison of rate constant of beta-linkage isomerization and stereoconversion of specific aspartyl residues in recombinant human alpha-crystallin protein.	共著	2011	京都大学	Y. Sadakane and N. Fujii・KURRI Prog. Rep. 2011, PR3-5
13. アスパラギンおよびアスパラギン酸残基の構造的変化解析：神経疾患機構との繋がりを求めて、	単著	2011	京都大学	定金 豊・KURRI-KR-164 p15-19
14. A basic study of photochemical panning for ligands with lower binding affinity,	共著	2010	日本光医学光生物学会	Y. sadakane, I. Otsuka, K. Photomedicine and Photobiology 32, 25-26
15. Establishment of analytical method for the recombinant Asp-isomerized Human α -A crystalline using reversed-phase HPLC.	共著	2010	京都大学	Y. Sadakane and N. Fujii・KURRI Prog. Rep. 2009, PR6-5.
16. Analysis of structural alternations of L-Asp and L-Asn residues in peptides related to neuronal conformational disease.	共著	2010	京都大学	Y. Sadakane, K. Konoha, H. Koyama, M. Kawahara, K. Nakagomi・KURRI-KR-155, 1-5.
17. Effects of UV-B irradiation on the stability of amino acids and peptides.	共著	2010	九州保健福祉大学	Y. Sadakane, T. Fukuhara, M. Kawahara, K. Nakagomi・J. KUHW 11, 147-152.
18. Ligand structure for photoaffinity labeling of carbohydrate-binding protein.	共著	2009	日本光医学光生物学会	Y. sadakane, I. Otsuka, K. Konoha, H. Koyama, M. Kawahara, Y. Hatanaka・Photomedicine and Photobiology 31, 9-10.
19. Analysis of structural alternation of L-Asp and L-Asn residues in the peptides related to neuronal conformation disease.	共著	2009	京都大学	Y. Sadakane, K. Konoha, M. Kawahara・KURRI-KR-148, 1-5.
20. Preparation of recombinant Asp-isomerized crystalline and analysis of the effects of Asp alternation on protein function and structure using radiation.	共著	2009	京都大学	Y. Sadakane and N. Fujii・KURRI Prog. Rep. 2008, PR6-5.
21. Preparation of recombinant lysosomal cysteine protease, cathepsin K in insect cells.	共著	2009	九州保健福祉大学	Y. Sadakane, T. Ito, S. Imanishi, K. Nakagomi, Y. Hatanaka・J. KUHW 10, 201-207.
他 9 編				
学術論文 学会発表等の題名		発表者名		発表誌名・巻・ページ・発表年等 学会名・発表年・開催都市名等
(学術論文)				
1. Implications of Metal Binding and Asparagine Deamidation for Amyloid Formation.		Sadakane Y, Kawahara M.		<i>Int J Mol Sci.</i> 19 (8). pii: E2449. doi: 10.3390/ijms19082449.
2. タンパク質中のアミノ酸レベルの自発的構造変化の分析と意義		定金 豊		ぶんせき 進歩総説 2017 第 7 号 305-311 (2017)
3. 市販の酵素を組合せた LC-MS でのアミノ酸残基の構造的異性化の迅速な分析法		定金 豊		ぶんせき トビックス 2016 第 1 号 p30 (2016)
4. Photoaffinity electrophoretic mobility shift assay using photoreactive DNA bearing 3-trifluoromethyl-3- phenyldiazirine in its phosphate backbone.		Yutaka Sadakane, Yasumaru Hatanaka		<i>Anal. Biochem.</i> 506, 1-7. (2016)
5. Protective activity of carnosine and anserine against zinc-induced neurotoxicity: a possible treatment for vascular dementia.		Mizuno D., Konoha-Mizuno K., Mori M., Sadakane Y., Koyama H., Ohkawara S., Kawahara M.		<i>Metallomics</i> , 7, 1233-1239. (2015)
6. Quantitative analysis of carnosine and anserine in foods by performing high performance liquid chromatography.		Mori M., Mizuno D., Konoha-Mizuno K., Sadakane Y., Kawahara M.		<i>Biomed. Res. Trace Elements</i> , 26, 147-152. (2015)
7. Carnosine concentration in the muscle of thoroughbred horses and its implications in exercise performance.		Mori M., Mizuno D., Konoha-Mizuno K., Sadakane Y., Kawahara M.		<i>Trace Nutrients Res.</i> 32, 49-53 (2015)
8. 肝細胞がんに対するシスプラチン・リピオドール療法における嘔吐の危険因子および制吐剤の予防効果の解析		長手 俊樹, 池村 健治, 世古口典子, 榎屋 友幸, 村木 優一, 岩佐元雄, 岩本 卓也, 定金 豊, 奥田真弘		医療薬学 41, 768-775 (2015)
9. 神経疾患と亜鉛		川原 正博, 定金 豊, 水野 大		亜鉛栄養治療 5 巻 1 号 pp25-36 (2014)
10. The Development of New Molecular Tools Containing a Chemically Synthesized Carbohydrate Ligand for the Elucidation of Carbohydrate Roles via Photoaffinity Labeling: Carbohydrate-Protein Interactions are Affected by the Structures of the Glycosidic Bonds and the Reducing- End Sugar.		Ohtsuka I., Sadakane Y., Hada, N., Higuchi M., Atsumi T., Kakiuchi, N.		<i>Bioorg. Med. Chem.</i> , 22, 3829 - 3837. (2014)
11. Involvement of trace elements in the pathogenesis of prion diseases.		Mizuno, D., Koyama H., Ohkawara S., Sadakane Y., Kawahara M.		<i>Curr Pharm Biotech</i> , 15, 1049-1057. (2014)
12. Distruption of zinc homeostasis and the pathogenesis of senile dementia.		Kawahara M., Mizuno, D., Koyama H., Konoha K., Ohkawara S., Sadakane Y.		<i>Metallomics</i> , 6, 209-219 (2014)
13. D-Histidine and L-histidine attenuate zinc-induced neuronal death in GT1-7 cells.		Kawahara M, Sadakane Y, Koyama H, Konoha K, Ohkawara		<i>Metallomics</i> , 5, 453-460(2013)
14. Zinc neurotoxicity and the pathogenesis of vascular-type dementia: Involvement of calcium dyshomeostasis and carnosine,		Koyama H, Konoha K, Sadakane Y, Ohkawara S, and Kawahara M:		J. Clin Toxicol. S3:002. doi:10.4172/2161-0495.S3-002 (2012)
15. Determination of rate constants for beta-linkage isomerization of three specific aspartyl residues in recombinant human alpha A-crystallin protein by reversed-phase HPLC,		Y. Sadakane, N. Fujii, K. Nakagomi		J Chromatogr. B. 879, 3240-3246. (2011)
16. Effects of trace metals on the conformational changes of amyloidogenic proteins and their neurotoxicity,		Kawahara M., Koyama H., Sadakane Y.		Biomed. Res.Trace Elements 22, 7-14 (2011)
17. Zinc, copper, and carnosine attenuate neurotoxicity of prion fragment PrP106-126,		Kawahara M., Koyama H., Nagata T., Sadakane Y.		Metallomics, 3, 726-734. (2011)

18. Membrane incorporation, channel formation, and disruption of calcium homeostasis by Alzheimer's beta-amyloid protein. International Journal of Alzheimer's Disease.	Masahiro Kawahara, Isao Ohtsuka, Shoko Yokoyama, Midori Kato-Negishi and Yutaka Sadakane. I. Ohtsuka, Y. Sadakane, M. Higuchi, N. Hada, J. Hada, N. Kakiuchi, A. Sakushima	International Journal of Alzheimer's Disease. 2011 Article ID 304583, 17 pages (2011) Bioorg Med. Chem. 19, 894-899 (2011)
19. The effect of the structural differences in the reducing terminus of sugars on the binding affinity of carbohydrates and proteins analyzed using photoaffinity labeling.	Y. Yamazaki, N. Fujii, Y. Sadakane, N. Fujii.	Anal. Chem. 82, 6384-6394 (2010)
20. Differentiation and semiquantitative analysis of an isoaspartic acid in human alpha-Crystallin by postsource decay in a curved field reflectron.	Y. Sadakane, K. Konoha, M. Kawahara, K. Nakagomi	Chem. & Biodivers. 7, 1371-1379 (2010)
21. Quantification of structural alterations of L-Asp and L-Asn residues in peptides related to neuronal disease by reversed-phase HPLC.	Kawahara M. Negishi-Kato M, Sadakane Y.	Expert Rev Neurother. 9, 681-693. (2009)
22. Calcium dyshomeostasis and neurotoxicity of Alzheimer's beta-amyloid protein.	Y. Sadakane, M. Tsunoda	YAKUGAKU ZASSHI 128, 1587-1588. (2008)
23. On the frontier of analytical science by young scientist -Detection and utilization of biomolecules-	Y. Sadakane, Y. Hatanaka	YAKUGAKU ZASSHI 128, 1615-1622. (2008)
24. Development of new method for molecular biology using the photophore, diazirine.	Y. Sadakane, K. Konoha, T. Nagata, M. Kawahara	Trace Nutrients Res. 25, 41-45. (2008)
25. Improvement of screening for protective substances against zinc-induced neuronal cell death.	T. Nakamura, M. Sakai, Y. Sadakane, T. Haga, Y. Goto, T. Kinouchi, T. Saito, N. Fujii	BBA - Proteins and Proteomics. 1784, 1192-1199. (2008)
26. Differential rate constants of racemization of aspartyl and asparaginyl residues in human alpha A-crystallin mutants.	Y. Sadakane, K. Nakagomi, Y. Hatanaka	Anal. Biochem., 381, 157-159. (2008)
27. Ten-minute purification of PCR products by continuous elution electrophoresis.		
他 29 編 (学会発表等)		
1. (招待講演) タンパク質内でのアミノ酸残基の老化: 高速キラル分析と生体機能への影響	定金 豊	第 79 回分析化学討論会 (福岡)
2. 修復酵素 PIMT を利用したタンパク質内のアミノ酸老化解析	森本正大、鶴田大将、田中温季、定金 豊 定金 豊	日本薬学会第 139 年会 (千葉) 2019 年 3 月 23 日 D アミノ酸学会第 4 回ワークショップ (東京)
3. (招待講演) タンパク質内の D-アミノ酸分析と神経変性疾患との関わり	森本正大、鶴田大将、田中温季、定金 豊	新アミノ酸分析研究会第 8 回学術講演会 (東京) 2018 年 12 月 17 日
4. 異性化修復酵素 PIMT を利用したタンパク質内のアミノ酸構造変化の解析	鶴田 大将, 森本 正大, 定金 豊	第 14 回 D アミノ酸学会 (富山) 2018 年 9 月 5 日
5. 修復酵素 PIMT とヒドラ ジンを用いた化学修飾法による iso-Asp 残基部位特定 法の確立のための基礎的検討	定金 豊、森下優花、森本正太	第 64 回 日本薬学会東海支部学術大会 (名古屋) 2018 年 6 月 30 日
6. 再現性の良いアミロイド線維形成条件の検討と阻害物質探索への応用	定金 豊、窪田安紘、藤原 将平、大塚 功	日本薬学会第 138 年会 (金沢) 2018 年 3 月 27 日
7. 糖鎖ミメティックペプチド結合特性の光アフィニティーラベリング分析	定金 豊、千田紗弓、出口 拓	第 7 回新アミノ酸研究会 (東京) 2017 年 12 月 4 日
8. スクシンイミド中間体の開環と閉環反応に及ぼすアミノ酸側鎖の影響	定金 豊、窪田安紘、藤原 将平、大塚 功	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2017 (三重) 2017 年 11 月 26 日
9. 糖鎖ミメティックペプチド結合特異性の光化学的分析	定金 豊、藤原 将平、大塚 功	日本薬学会第 137 年会, 2017 年 3 月 27 日 仙台
10. 光反応性糖鎖ミメティックペプチドを用いた結合解析法の開発	大塚 功、定金 豊、羽田 紀康、渥美 聡孝、垣内 信子	日本薬学会第 137 年会, 2017 年 3 月 25 日 仙台
11. 光アフィニティーラベル法による糖鎖機能解明を志向した分子ツールの開発 -LeX 型糖鎖リガンドの合成	田中 健一郎, 森 美和子, 水野 大, 定金 豊, 川原 正博	日本薬学会第 137 年会, 2017 年 3 月 27 日 仙台
12. 食品中カルノシンの carbon カラム HPLC による定量分析	定金 豊, 祖父江 友宏, 地主 将典	第 6 回新アミノ酸研究会, 2016 年 11 月 4 日 東京
13. タンパク質中のアミノ酸残基の老化に伴う経時的構造変化を可視化する解析法の確立	定金 豊, 祖父江 友宏, 地主 将典	第 9 回 D アミノ酸学会, 2016 年 9 月 15 日 高知
14. カルモジュリンのアミノ酸レベルの老化と構造解析法の確立	大塚 功、定金 豊、羽田 紀康、渥美 聡孝、垣内 信子	日本薬学会第 136 年会, 2016 年 3 月 28 日 横浜
15. 光アフィニティーラベル法による LeX 型糖鎖の機能解明を志向した分子ツールの開発	定金 豊	第 15 回日本タンパク質科学学会年会ワークショップ (オーガナイザー、福井 清、藤井紀子) 2015 年 6 月 24 日 徳島
16. (招待講演) 神経疾患に関わるペプチド中のアミノ酸残基の構造的变化と生理活性への関わり	定金 豊、千田 紗弓, 出口 拓	日本薬学会第 135 年会, 2015 年 3 月 27 日 神戸
17. 異性化修復酵素 PIMT によるアスパラギン酸残基の異性化機構の解析	定金 豊	京都大学原子炉実験所・専門研究会「第 7 回 タンパク質の異常凝集とその防御・修復機構に関する研究会」2014 年 12 月 11 日 大阪
18. (招待講演) アスパラギンとアスパラギン酸残基の異性化の機構及び生理的機能変化の解析	定金 豊	新アミノ酸研究会 第 4 回学術講演会 2014 年 11 月 17 日 東京
19. (招待講演) 神経疾患に関わるペプチド中のアミノ酸残基の構造的变化と生理活性への影響	定金 豊	The 2 nd International Conference of D-Amino Acid Research (IDAR 2014) 2014 年 9 月 4 日 (totigi, Japan)
20. (招待講演) Analysis of fibril formation and structural alteration of Asn residue in the peptide fragments of Prion protein	千田 紗弓, 出口 拓, 定金 豊	2014 2014 年 8 月 20-21 日 東京
21. アスパラギンとアスパラギン酸残基の異性化の機構及び生理的機能変化の解析 BMAS	水野 大, 高橋 千紘, 金子 奈央, 定金 豊, 川原 正博	日本薬学会第 134 年会, 2014 年 3 月 28-30 日 熊本
22. 脳血管性認知症予防・治療薬としてのカルノシンの作用メカニズム解明	定金 豊, 松下 秀峰, 山路 充宏, 大塚 功	日本薬学会第 134 年会, 2014 年 3 月 28-30 日 熊本
23. 光反応性糖鎖ミメティックペプチドの合成とレクチン解析への応用	定金 豊, 宇佐美 亜由子, 山本 理香子	日本薬学会第 133 年会, 2013 年 3 月 28-30 日 横浜
24. プリオンタンパク質ペプチド断片の N 末構造変化と線維化速度への影響	小山 裕也, 柴田 直哉, 定金 豊, 大河原 晋, 川原 正博, 伊藤 潔	日本薬学会第 133 年会, 2013 年 3 月 28-30 日 横浜
25. PrP 断片ペプチドに対する pH および金属の影響	定金 豊, 山路 充宏, 大塚 功	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部 合同学術大会 2012 2012 年 11 月 18 日 岐阜
26. 光反応性糖鎖リガンドを用いた結合解析法の効率化	定金 豊, 川原 正博	第 31 回日本社会薬学会年会, 2012 年
27. 亜鉛の毒性とその抑制物質: 認知症との関連		

28. プリオンタンパク質断片ペプチド (106-126) の N 末およびアスパラギン残基の構造変化によるアミロイド線維化速度への影響	定金 豊, 宇佐美 亜由子, 山本 理香子	9月15-16日 三重 第8回 D アミノ酸研究会, 2012年9月7-8日 滋賀 International Carbohydrate Symposium (2012, 7, 22-27, Spain)
29. Synthesis of new molecular tools for elucidation of carbohydrates roles by photoaffinity labeling: Carbohydrate - Carbohydrate-protein interactions are affected by different of glycosidic formations.	I. Ohtsuka; Y. Sadakane; N. Hada, M. Higuchi; N. Kakiuchi	
30. プリオンタンパク質ペプチド断片の N 末アミノ酸の構造変化と線維化速度への影響	宇佐美 亜由子, 山本 理香子, 定金 豊	第 59 回日本薬学会東海支部大会 2012年7月6日 名古屋
31. 還元末端が開環した構造をもつ光反応性糖鎖リガンドの合成と結合解析法の確立	定金 豊, 大塚 功, 山路 充宏, 畑中 保丸	第34回日本光医学・光生物学会 2012年7月27-28日 神戸
32. アルツハイマーβペプチド断片の N 末端の構造変化による線維化速度への影響	定金 豊, 宇佐美 亜由子, 山本 理香	第 58 回日本薬学会東海支部大会 2012年7月7日 静岡
33. Molecular mechanism of zinc-induced neurodegeneration: involvement of calcium dyshomeostasis and carnosine.	Susumu Ohkawara, Hironari KOYAMA, Yutaka SADAKANE, and Masahiro KAWAHARA	第 22 回金属の関与する生体関連反応シンポジウム 2012年5月31日, 6月1日 金沢
34. Zinc Complexes as Dipeptidyl Peptidase-4 (DPP4) Inhibitor Mimetics	Yutaka FUJISAWA, Masako UEMURA, Seiji KOMEDA, Yutaka SADAKANE, Yasuhiko IIDA	第 22 回金属の関与する生体関連反応シンポジウム 2012年5月31日, 6月1日 金沢
35. DNA Conformational Changes Induced by Antitumor Tetrazolo-Bridged Dinuclear Pt(II) Complexes	Masako UEMURA, Yutaka FUJISAWA, Yutaka SADAKANE, Yasuhiko IIDA, Magotoshi MORII, Masahiko CHIKUMA, and Seiji KOMEDA	第 22 回金属の関与する生体関連反応シンポジウム 2012年5月31日, 6月1日 金沢
36. アルツハイマー β ペプチドの N 末側アミノ酸の構造的変化と線維化への影響	定金 豊, 小山 裕也, 川原 正博	日本薬学会第 132 年会, 2012年3月28-31日 札幌
37. PrP106-126 の高次構造変化に重要な配列	小山 裕也, 坂口 哲陸, 定金 豊, 川原 正博	日本薬学会第 132 年会, 2012年3月28-31日 札幌
38. 膵 β 細胞の亜鉛ホメオスタシスの改善を目指した DPP4 阻害剤の開発研究	藤澤 豊, 植村 雅子, 米田 誠治, 定金 豊, 飯田 靖彦, 森井 孫俊, 桜井 弘	日本薬学会第 132 年会, 2012年3月28-31日 札幌
39. 光アフィニティーラベル法による新規分子ツールの開発～糖鎖結合様式が認識に及ぼす影響を検証～	大塚 功, 定金 豊, 羽田 紀康, 羽田 純子, 新垣 達司, 樋口 真里, 垣内 信子	日本薬学会第 132 年会, 2012年3月28-31日 札幌
40. (招待講演) 神経疾患に関わるペプチド断片の機能とアミノ酸レベルの構造変化: アミロイド線維化と細胞毒性への影響	定金 豊	京都大学原子炉実験所・専門研究会「第4回 タンパク質の異常凝集とその防御・修復機構に関する研究会」 2011年11月11日 大阪
41. 部位特異的カルベン発生型 DNA, ペプチド, タンパク質の作製ツールの開発	定金 豊, 畑中 保丸	第 33 回 日本光医学・光生物学会 2011年7月23日 大阪
42. (カンファレンス講演) 光を利用して化学と生物とをつなぐ新技術を開発する	定金 豊	順正学園学術カンファレンス 2011年3月6日 延岡
43. 脳疾患に関連するペプチド中のアスパラギンおよびアスパラギン酸残基の構造変化と生理活性	定金 豊, 小山 裕也, 川原 正博	第 57 回日本薬学会東海支部大会 2011年7月9日 名古屋
44. コンフォメーション病に関与するペプチド中のアスパラギンおよびアスパラギン酸残基の構造変化と生理活性	定金 豊, 小山 裕也, 川原 正博	日本薬学会第 131 年会, 2011年3月静岡
45. PrP 断片ペプチドに対する亜鉛および銅の影響	小山 裕也, 永田 哲也, 定金 豊, 川原 正博	日本薬学会第 131 年会, 2011年3月静岡
46. 光アフィニティーラベル法による新規分子ツールの開発～糖鎖結合様式が認識に及ぼす影響を検証～	大塚 功, 定金 豊, 樋口 真里, 垣内 信子	日本薬学会第 131 年会, 2011年3月静岡
47. プリオンペプチド断片 (106-126) 中のアスパラギン残基の自発的構造変化と生理機能	定金 豊, 小山 裕也, 大塚 功, 川原 正博	第27回日本薬学会九州支部大会, 2010年12月11日 長崎
48. 光アフィニティーラベル法による糖鎖機能解明を目指した新規分子ツールの開発	大塚 功, 定金 豊, 樋口 真里, 垣内 信子	第27回日本薬学会九州支部大会, 2010年12月11日 長崎
49. PrP 断片ペプチドに対する亜鉛および銅の影響	小山 裕也, 永田 哲也, 定金 豊, 川原 正博	第27回日本薬学会九州支部大会, 2010年12月11日 長崎
50. (招待講演) アスパラギンおよびアスパラギン酸残基の構造的変化解析: 神経疾患機構との繋がりを求めて	定金 豊	京都大学原子炉実験所・専門研究会「第3回 タンパク質の異常凝集とその防御・修復機構に関する研究会」 2010年11月11日 大阪
51. プリオン蛋白断片ペプチドのコンフォメーション変化と神経毒性に及ぼす微量金属の影響	川原 正博, 小山 裕也, 定金 豊	第 2 回メタロミクス研究フォーラム 2010年11月2-3日 京都
52. Synthesis of new molecular tools for elucidation of carbohydrates roles by photoaffinity labeling: Carbohydrate - protein interactions are affected by different of glycosidic formations.	I. Ohtsuka; Y. Sadakane; M. Higuchi; N. Kakiuchi; A. Sakushima	PACIFICHEM 2010 (2010, 12, 16, Hawaii)
53. Alterations of gene expressions during neuronal death after zinc exposure: implications of calcium dyshomeostasis	Kawahara M., Koyama H., Sadakane Y.	Society for Neuroscience (2010.11.16-21, San Diego)
54. プリオンペプチド断片 (106-126) 中の Asn 残基の構造的変化と生理活性について	定金 豊, 小山 裕也, 大塚 功, 木葉 敬子, 川原 正博	第 6 回 D-アミノ酸研究会学術講演会 2010年9月17日 富山
55. 糖鎖機能の効率的解析を目指した光反応性糖鎖リガンドの製作	定金 豊, 大塚 功, 川原 正博, 畑中 保丸	第 32 回 日本光医学・光生物学会 2009年7月30日 東京
56. Effects of zinc and copper on conformational changes and neurotoxicity of prion fragment peptide (PrP106-126)	小山 裕也, 定金 豊, 大塚 功, 川原 正博	第 20 回金属の関与する生体関連反応シンポジウム (SRM2010) (2010.06.25-26, 徳島)
57.		日本薬学会第 130 回年会, 2010年3月30日 岡山
58. carnosine 誘導体合成と GT1-7 系における神経細胞保護効果	鳥や尾 篤, 宮越 辰則, 反田 和宏, 渡邊 暁子, 坂本 正徳, 木葉 敬子, 定金 豊, 川原 正博, 山崎 哲郎	日本薬学会第 130 回年会, 2010年3月30日 岡山
59. 光アフィニティーラベル法による糖鎖機能解明を目指した新規分子ツールの創製	大塚 功, 定金 豊, 樋口 真里, 佐久島 明世	日本薬学会第 130 回年会, 2010年3月30日 岡山
60. プリオンペプチド断片中のアスパラギン残基の構造的変化と生理活性	定金 豊, 小山 裕也, 大塚 功, 木葉 敬子, 川原 正博	日本薬学会第 130 回年会, 2010年3月30日 岡山
61. プリオン蛋白による培養細胞に対する亜鉛および銅の影響	小山 裕也, 永田 哲也, 定金 豊, 大塚 功, 戸泉 文江, 横山 祥子, 川原 正博	日本薬学会第 130 回年会, 2010年3月30日 岡山

62. 微量金属の神経毒性と神経変性疾患	川原 正博, 定金 豊, 小山 裕也	日本薬学会第 130 回年会、2010 年 3 月 28 日 岡山
63. 糖鎖結合タンパク質に適した光化学的スクリーニング法の開発	定金 豊, 木葉 敬子, 川原 正博, 畑中 保丸	日本薬学会九州支部大会, 2009 年 12 月 12 日 福岡
64. Carnosine inhibits β -sheet formation of PrP106-126 and protects against its neurotoxicity	Kawahara M, Nagata T, Konoha K, Sadakane Y	Alzheimer's Association International Conference on Alzheimer's Disease 2009 (2009.07.11-16, Wien, Austria)
65. Analysis of Alternation of A-Asp and L-Asn residues in peptides related to conformational disease	Y. Sadakane, K. Konoha, M. Kawahara, K. Nakagomi	International D-amino acid Research (IDAR2009) (Awazi Inland, Japan)
66. (招待講演) 神経疾患に関わるペプチド中のアスパラギンおよびアスパラギン酸残基の構造的変化と生理活性	定金 豊	京都大学原子炉実験所・専門研究会「第2回 タンパク質の異常凝集とその防御・修復機構に関する研究会」2009 年 11 月 12 日 大阪
67. 光反応性生体高分子リガンドの開発と光化学的スクリーニング法への応用	定金 豊, 大塚 功, 木葉 敬子, 畑中 保丸	第 31 回 日本光医学・光生物学会 2009 年 7 月 23 日 大阪
68. HPLC によるラット脳内カルノシンの定量	木葉 敬子, 定金 豊, 永田 哲也, 川原 正博	日本薬学会第 129 回年会, 2009 年 3 月 26 日 京都
69. 環状 L-carnosine 誘導体の合成とその生物学的評価	鳥や尾 篤, 宮越 辰則, 渡邊 暁子, 坂本 正徳, 木葉 敬子, 定金 豊, 川原 正博, 山崎 哲郎	日本薬学会第 129 回年会, 2009 年 3 月 27 日 京都
70. 中枢神経保護作用を目的とした L-carnosine 誘導体の合成	宮越 辰則, 鳥や尾 篤, 渡邊 暁子, 坂本 正徳, 木葉 敬子, 定金 豊, 川原 正博, 山崎 哲郎	日本薬学会第 129 回年会, 2009 年 3 月 27 日 京都
71. アロマセラピー精油の培養視床下部神経細胞に対する作用: 女性ホルモン系との相互作用	川原 正博, 中村 亜紀子, 永田 哲也, 木葉 敬子, 定金 豊	日本薬学会第 129 回年会, 2009 年 3 月 27 日 京都
72. アルツハイマー β アミロイドペプチドの自己構造変化を認識する抗体作製と応用	定金 豊, 木葉 敬子	日本薬学会第 129 回年会, 2009 年 3 月 27 日 京都
73. プリオン蛋白断片ペプチド PrP106-126 のコンフォーメーションの違いによる細胞膜における糖脂質認識能について - 原子間力顕微鏡による直接観察	大塚 功, 永田 哲也, 木葉 敬子, 定金 豊, 川原 正博, 横山 祥子	日本薬学会第 129 回年会, 2009 年 3 月 27 日 京都
74. 微量元素の神経毒性と老年性認知症の発症メカニズム、日本薬学会シンポジウム「金属の関与する生命科学 (II) トキシコメタロミクス研究の新展開~最新分析法開発から創薬、診断、治療へのアプローチ」	川原 正博, 永田 哲也, 大塚 功, 木葉 敬子, 定金 豊, 横山祥子	日本薬学会第 129 回年会、2009 年 3 月 27 日
75. アロマセラピー精油は代替治療となりうるか? 第 14 回創薬を目指した生理活性物質研究会	川原 正博, 中村 亜紀子, 永田 哲也, 木葉 敬子, 定金 豊	第 43 回未来開拓研究会, 2008 年 12 月 13 日 東京
76. L-Carnosine 誘導体の合成と生理作用について	宮越 辰則, 鳥や尾 篤, 渡邊 暁子, 坂本 正徳, 木葉 敬子, 定金 豊, 川原 正博, 山崎 哲郎	第 25 回日本薬学会九州支部大会 2008 年 12 月 5-6 日 延岡
77. プリオン断片蛋白 PrP106-126 のコンフォーメーションの違いによる GM1 への認識能の変化-原子間力顕微鏡による直接観察	大塚 功, 永田 哲也, 木葉 敬子, 定金 豊, 川原 正博, 横山 祥子	第 25 回日本薬学会九州支部大会 2008 年 12 月 5-6 日 延岡
78. ゼラニウム精油と抗エストロゲン剤 tamoxifen の相互作用: 培養視床下部神経細胞を用いる研究	中村 亜紀子, 木葉 敬子, 永田 哲也, 定金 豊, 川原 正博	第 25 回日本薬学会九州支部大会 2008 年 12 月 5-6 日 延岡
79. Effects of trace elements on prion-induced neurotoxicity of primary cultured hippocampal neurons	M. KAWAHARA, T. NAGATAI, OHTSUKA, K. KONOHA, Y. SADAKANE, S. YOKOYAMA	Neuroscience 2008 (Washington D.C., U.S.A. 2008.11.19)
80. (招待講演) Asp 残基の構造変化分析法の開発とコンフォーメーション病への応用	定金 豊	京都大学原子炉実験所・専門研究会「タンパク質の異常凝集とその防御・修復機構に関する研究会」2008 年 10 月 2 日 大阪
81. アルツハイマー β アミロイドペプチドの自己構造変化の検出法について	定金 豊, 木葉 敬子	第 4 回 D-アミノ酸研究会学術講演会 2008 年 9 月 19-20 日 名古屋
82. 亜鉛による神経細胞アポトーシスにおける細胞内カルシウムホメオスタシスの役割	川原 正博, 定金 豊, 木葉 敬子, 永田 哲也	学内共同研究報告会 2008 年 9 月 12 日
83. 亜鉛による神経細胞死を抑制する成分: 魚介類バイオマスからの単離と同定	木葉 敬子, 定金 豊, 永田 哲也, 川原 正博	第 21 回バイオメディカル分析科学シンポジウム 2008 年 8 月 6-8 日 札幌
84. ジアジリンを利用した光化学的スクリーニング法の開発	定金 豊, 木葉 敬子, 畑中 保丸	第 21 回バイオメディカル分析科学シンポジウム 2008 年 8 月 6-8 日 札幌
85. 光化学的スクリーニング法の開発	定金 豊, 木葉 敬子, 畑中 保丸	第 30 回 日本光医学・光生物学会 2008 年 7 月 11-12 日 島根
86. プリオン蛋白による培養神経細胞に対する亜鉛および銅の影響	永田 哲也, 木葉 敬子, 定金 豊, 川原 正博	第 19 回日本微量元素学会 2008 年 7 月 3-4 日 東京
87. GT1-7 マウス神経株化細胞を用いた亜鉛による神経細胞死メカニズムの解明	定金 豊, 木葉 敬子, 永田 哲也, 川原 正博	第 18 回金属の関与する生体関連反応シンポジウム 2008 年 6 月 5-6 日 名古屋
88. 魚介類水抽出液からの脳血管認知症予防物質の単離と同定	定金 豊, 木葉 敬子, 永田 哲也, 川原 正博	日本微量栄養素学会第 25 回学術集会 2008 年 5 月 30 日 京都
89. (招待講演) 光反応基ジアジリンを利用した生化学的手法の開拓	定金 豊, 畑中 保丸	日本薬学会第 128 年会, 2008 年 3 月 28 日 横浜
90. 亜鉛による神経細胞死: クエン酸の抑制活性とそのメカニズムについて	定金 豊, 木葉 敬子, 永田 哲也, 川原 正博	日本薬学会第 128 年会, 2008 年 3 月 27 日 横浜
91. 亜鉛による培養神経細胞死に対する金属イオンの阻害メカニズムの検討	木葉 敬子, 永田 哲也, 定金 豊, 川原 正博	日本薬学会第 128 年会, 2008 年 3 月 27 日 横浜
92. プリオン蛋白による培養神経細胞に対する毒性メカニズムの検討	永田 哲也, 定金 豊, 木葉 敬子, 川原 正博	日本薬学会第 128 年会, 2008 年 3 月 27 日 横浜
93. (招待講演) 光反応基ジアジリンを利用した生化学的手法の開拓	定金 豊, 畑中 保丸	日本薬学会第 128 年会, 2008 年 3 月 28 日 横浜
他 154 件 (その他)		